

地域防災力センター

平成 30 年度事業報告

1. 中越市民防災安全大学の運営（長岡市）

【1】背景・目的

中越市民防災安全大学は「安全」や「防災」をテーマに、専門的な知識や災害時に役立つノウハウや実技を学び、被災現場を視察できる連続講座として広く市民の方々の参加を通じて、防災に関わる人材の裾野を広げ、地域の防災活動や災害時に活躍できる人材、災害や防災の知識・教訓等を語り継げる人材を育成することを目的としている。

13 期目の中越市民防災安全大学では、第 2 日目を受講生だけでなく、広く一般市民も参加・聴講できる公開講座とし、地域に開かれた講座として実施した。今期の卒業生 54 名を含めて、これまでに 638 名の卒業生（中越市民防災安全士）を輩出し、それぞれの地域の防災活動で活躍している。

中越市民防災安全大学 これまでの開校実績

	開講期間	受講者数	修了者数	安全士会員	会場
第 1 期生	H18.7.22～11.25	60 名	57 名	53 名	ながおか市民センター
第 2 期生	H19.7. 7～11.17	45 名	44 名	33 名	長岡商工会議所
第 3 期生	H20.7. 5～11.15	58 名	55 名	31 名	長岡商工会議所
第 4 期生	H21.7. 4～11.14	49 名	45 名	23 名	長岡商工会議所
第 5 期生	H22.7. 3～11.13	40 名	34 名	21 名	長岡商工会議所 ながおか市民防災センター
第 6 期生	H23.7.9～11.12	52 名	48 名	21 名	長岡商工会議所 まちなかキャンパス 長岡震災アーカイブセンター
第 7 期生	H24.7.7～11.10	53 名	52 名	41 名	ながおか市民防災センター 長岡震災アーカイブセンター 長岡市消防本部
第 8 期生	H25.6.29～11.2	52 名	51 名	25 名	ながおか市民防災センター 長岡震災アーカイブセンター 長岡市消防本部
第 9 期生	H26.7.5～11.22	47 名	47 名	27 名	ながおか市民防災センター 長岡震災アーカイブセンター 長岡市消防本部
第 10 期生	H27.7.4～11.21	63 名	61 名	18 名	ながおか市民防災センター 長岡震災アーカイブセンター 長岡市消防本部
第 11 期生	H28.8.20～9.4	48 名	47 名	17 名	ながおか市民防災センター 長岡震災アーカイブセンター 長岡市消防本部
第 12 期生	H29.8.26～9.10	47 名	43 名	16 名	ながおか市民防災センター 長岡震災アーカイブセンター 長岡市消防本部
第 13 期生	H30.8.25～9.9	54 名	54 名	26 名	長岡震災アーカイブセンター まちなかキャンパス長岡

【2】講座内容

日 程・会 場			テ ー マ・講 師	
第 1 日 8.25 (土)	9:00-10:30	長岡震災アーカイブセンター きおくみらい	オリエンテーション・講話 中越防災安全推進機構 長岡市・中越市民防災安全士会	
	10:40-12:10	長岡震災アーカイブセンター きおくみらい	地域防災	青葉台3丁目自主防災会 神田 英一朗
	13:10-14:40	長岡震災アーカイブセンター きおくみらい	地域防災会の取組	長岡市・中越市民防災安全士会
	14:50-16:20	長岡震災アーカイブセンター きおくみらい	クロスロード体験	地域防災講座インストラクター 中越防災安全推進機構
第 2 日 8.26 (日)	9:00-10:30	まちなかキャンパス長岡	【公開講座】災害ボランティア～その進化と多様な役割	長岡技術科学大学 松田 曜子
			長岡における災害支援体制	中越防災安全推進機構 地域防災力センター 河内 毅
	10:40-12:10	まちなかキャンパス長岡	【公開講座】防災教育	群馬大学大学院理工学府 広域首都圏防災研究センター 金井 昌信
			新潟県における防災教育	中越防災安全推進機構 松井 千明
	13:10-14:40	まちなかキャンパス長岡	【公開講座】原子力災害とその課題	獨協医科大学医学部 特任講師 小正 裕佳子
	14:50-16:20	まちなかキャンパス長岡	【公開講座】災害医療	国際医療福祉大学大学院 保健医療学専攻 災害医療分野 教授 石井 美恵子
第 3 日 9.1 (土)	9:00 集合・出発	ながおか市民防災センター前 集合、出発	(バス移動・ながおか市民防災センター前での集合、乗車及び解散)	
	9:30-11:30	おぢや震災ミュージアムそなえ 館	(そなえ館) 施設見学・防災講話	中越防災安全推進機構
	12:00-13:00	やまこし復興交流館おらたる	昼食	山古志ごっつお多菜田 代表 五十嵐 なつ子
	13:00-13:30		(おらたる) 施設見学	中越防災フロンティア
	13:30-14:30	山古志地域	山古志地域視察	中越防災フロンティア
	15:15-16:15	川口きずな館	中越地震からの復興	中越防災安全推進機構 ムラビトデザインセンター
第 4 日 9.8 (土)	9:00-10:30	長岡震災アーカイブセンター きおくみらい	土砂災害発生の仕組みと防災対策	新潟大学 災害・復興科学研究所 ト部 厚志
	10:40-12:10	長岡震災アーカイブセンター きおくみらい	防災の最前線	防災ジャーナリスト 吉村 秀寛
	13:10-14:40	長岡震災アーカイブセンター きおくみらい	長岡市の防災対策と災害対応	長岡市危機管理防災本部 原子力安全対策室
	14:50-16:20	長岡震災アーカイブセンター きおくみらい	地域におけるコミュニケーション	中越防災安全推進機構 ムラビトデザインセンター
第 5 日 9.9 (日)	9:00-12:00	長岡震災アーカイブセンター きおくみらい	普通救命講習	長岡市消防本部 救急係
	13:10-14:40	長岡震災アーカイブセンター きおくみらい	水害への対策	(株) エコロジーサイエンス 樋口 勲
		長岡震災アーカイブセンター きおくみらい	気象災害軽減イノベーションセンターの取組	中越防災安全推進機構 地域防災力センター 諸橋 和行
	14:50-15:45	長岡震災アーカイブセンター きおくみらい	講話・卒業式	長岡市 危機管理防災本部 中越防災安全推進機構
	16:00-17:00	長岡震災アーカイブセンター きおくみらい	防災士試験 (申込希望者のみ)	日本防災士機構

【3】実施結果



講座1 オリエンテーション・講話



講座 2-1 地域防災



講座 2-2 地域防災会の取組



講座3 クロスロード体験



講座4 地区防災計画



講座5【公開講座】災害ボランティア



講座6【公開講座】防災教育



講座 7【公開講座】原子力災害とその課題



講座 8【公開講座】災害医療



講座 9【そなえ館】施設見学・講話



講座 10【おらたる】施設見学



講座 11 山古志地域視察



講座 12【きずな館】中越地震からの復興



講座 13 土砂災害発生の仕組みと防災対策



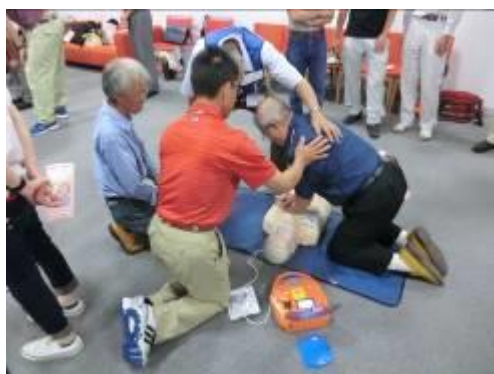
講座 14 防災の最前線



講座 15 長岡市の防災対策と災害対応



講座 16 地域におけるコミュニケーション



講座 17 普通救命講習



講座 18-1 水害への対策



講座 18-2 気象災害イノベーションハブ



講座 20 講話・卒業式

2. ふるさと新潟防災教育推進事業（新潟県中越大震災復興基金）

【1】目的

児童生徒の災害から生き抜く力を育むため、新潟県内の全小中学校に配布した「新潟県防災教育プログラム制作事業」（自然災害編：平成26年2月、原子力災害編：平成28年2月完成・配布済）の成果品の活用を促すとともに、各学校で防災教育を進める担当教員等が防災教育の重要性を理解し、実践的で継続的な取組を実施できるよう、防災に関する専門的・技術的な支援を行う。

【2】事業報告

①学校に対する働きかけ

新潟県防災教育に関する総合窓口を中越防災安全推進機構地域防災力センター内に設置し、小中学校や市町村等からの個別の相談や要望に応えるとともに、各学校・教職員による防災教育の実践活動を適宜サポートした。

【サポート内容】

- ・学校実践事業申請書等の作成支援
- ・学習プログラムの企画立案
- ・学校・市町村等からの個別相談（電話・出張）

【実績件数】

- ・実践サポート総件数 延べ160件（依頼校数57校、団体数12団体）

②ホームページ「防災教育スイッチ」の運営、更新、リニューアル

平成28年度より開設し、平成29年度にリニューアルした公式ホームページ「防災教育スイッチ」について、日々の運営、更新をするとともに、現場の教職員の声に応じ小規模なリニューアルを行った。

【実績件数】

- ・ホームページ更新総件数 延べ 32 件
- ・中越防災安全推進機構 16 件
- ・ふるさと未来創造堂 16 件

【リニューアルの改良点】

- ・防災教育実践校の年間計画を掲載するページを新設した。
- ・防災教育実践校の取組を一覧できるページを新設した。
- ・ホームページに掲載している情報を目的別に探せるページを新設した。



【3】各校の傾向と事業の成果と課題

(傾向)

- ・ 本事業の開始から4年目となり、防災教育の自校化が進んでいる学校とそうではない学校の差がはっきりとしてきている。
- ・ メモリアル施設の見学や、出前講座の依頼、防災教育の実施にあたっての相談では、教員の異動によって新たな学校からの問合せが少しずつ増えている。また、異動元の学校においても、年間カリキュラムに位置付けられた施設見学などでは、担当教員が異動した後でも取組が自校化され、続いている。
- ・ 「防災クロスロードゲーム」や「避難所運営ゲーム」などの学習プログラムの実施の様子をホームページなどで知り、自校で取り入れることができないかとの相談を受けることが多い。また、教員によってはプログラムについての情報提供をすることで、自前で学習を組立てることができ、自校化につながることもある。

(成果)

- ・ 平成28年度より開設し、平成29年度にリニューアルした公式ホームページ「防災教育スイッチ」について、日々の運営、更新をするとともに、現場の教職員の声に応じ小規模なリニューアルを行った。これにより、単一の授業計画だけでなく年間計画を考える際の手助けとなる情報の提供が可能になった。
- ・ 昨年度の課題として挙げた、学校直接のアプローチの限界から今年度は地域側へのアプローチを意識的に行った。村上市立岩船中学校・小学校では村上市防災課と連携し、津波避難を想定した防災訓練 7 月 17 日の岩船小 6 年生児童・岩船中全校生徒を対象とした、津波避難についての防災講話について打ち合わせを行った際には、村上市防災課・岩船中学校と小学校の管理職・地域の役員の方と講話の目的や、岩船地域

の状況について共有した。地域の方々が、主体的かつ協力的で、「新潟地震の被災体験を次世代に伝えたいが、その機会がない」「岩手県釜石市のように子ども達の率先避難に期待している」という言葉が印象的だった。同様に、学校における防災教育に協力したいと考える地域資源は他地域にも存在するのではないかという手応えを感じた。

(課題)

- ・ 防災教育未実施校でも取り入れやすい学習プログラムの開発、既に実施している学校向けの発展的な学習プログラムの開発など、学校の状況に応じた学習プログラムの充実を図り、情報発信を行う必要がある。
- ・ メモリアル施設を活用した防災教育について、単なる施設の案内だけでなく、見学前後のフォローも含めた体系的な支援を行うことで、自校化へ繋げていく。
- ・ 防災教育を自校化するための地域側へのアプローチとして、各地で活動する防災士や、自主防災会役員、学校教育や防災に関心のある地域住民などに対し、学校に対してのよき支援者となれるよう講習や繋ぐ機会を設定するなどの検討も必要だと感じている。

3. 地域防災力向上支援業務

【1】地域防災まちづくりフォローアップ事業（新潟県からの委託業務）

本業務は、市町村が自主防災組織活動等の支援を行うにあたり、抱えている課題の解決や事業のフォローアップ等を行うことにより、市町村の取組を支援し、地域防災力の向上を図ることを目的に実施したものである。

具体的には、自主防災活動の活性化に意欲のある3市町村（新潟市、村上市、湯沢町）を選定し、当機構職員を派遣して事業の企画立案から運営支援までを総合的にサポートした。また、県内市町村の防災担当者による取組や課題に関する意見交換の場として、市町村職員意見交換会を開催し、県の支援事業の改善を図るとともに市町村間の交流の場づくりを行った。さらに、毎年開催している地域防災交流会議では、「避難所運営」をテーマに講師を招いて勉強会を企画・開催し、市町村における避難所運営の質の向上を図った。



地域防災交流会議

【2】地域防災力強化支援事業（長岡市からの委託業務）

本業務は、自主防災活動の活発化と災害対応力の向上に向けて、自主防災組織の意識啓発・育成を目的とし、自主防災活動アドバイザー派遣、防災活動事例発表会、自主防災会長初任者研修、地域防災講座インストラクター養成・派遣を行ったものである。

自主防災活動アドバイザー派遣では、自主防災活動に疑問や悩みを持つ7つの自主防災会・町内会・連合自主防災会などに対して、当機構職員を派遣し（各地域に複数回）、地域の課題や活動のレベルに合わせた助言やワークショップ等を行い、各地域の防災に関する課題解決を促進した。

防災活動事例発表会は、他地域の参考となる活動を行っている長岡市内の自主防災会から事例を紹介してもらい、知見を共有する取組である。毎年、中越市民防災安全士会及び長岡市危機管理防災本部との共催で開催しているが、平成30年度は台風に伴う悪天候のために中止となった。また、同様に三者の共催事業として、主に新任の自主防災会長を対象とした自主防災会長初任者研修会を開催し、200名を超える方々が出席した。



自主防災会長初任者研修

地域防災講座インストラクター養成は、中越市民防災安全大学卒業生（中越市民防災安全士）など防災に関して一定の知識を有する者を対象に、専門的な研修を実施することで、地域や学校において講師を担える人材（地域防災講座インストラクター）を養成するものである。平成30年度は、「災害食講座」を指導できる講師として、新たに12名のインストラクターを養成した。

また、長岡市内の自主防災会などに対して、「災害食」並びに「クロスロード」の地域防災講座インストラクターを派遣し（各5地域）、地域住民に対して講座を実施するとともに、地域防災講座インストラクターに対するフォローアップ講座を実施した。



地域防災講座インストラクター（クロスロード）の活動

【3】避難所運営体制連絡会（検討会）運営委託業務（新潟市からの委託業務）

災害時の避難所運営を円滑に行うためには、地域住民（自主防災組織、コミュニティ協議会等）、施設管理者、行政職員の三者の協力が不可欠であり、事前に運営方法について三者で共通認識を持つこと、顔の見える協力体制を築いておくことが重要となる。

本業務は、三者が顔を合わせる検討会を開催し、地域住民主体の避難所運営体制を築くとともに、避難所で起こりうる問題を解決する能力を向上させ、運営体制を強化することを目的に実施したものである。

昨年度まではワークショップ（グループワーク）を中心とした集合型の研修を展開してきた。しかし、参加メンバーが限定されてしまう、現場のイメージがわからないといった課題が生じたことから、平成 30 年度は各避難所ごとに関係者が現地で点検活動を行う現地連絡会方式に切り替え、当機構は各区（新潟市内 8 区の指定避難所を対象）で開催された現地連絡会の事前説明会を担当した。



新潟市避難所運営体制連絡会

【4】外国人観光客防災体制整備事業（新潟市からの委託業務）

2019年のラグビーW杯、2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会など、国際的な大規模イベントを控えている。一方、2018年に発生した台風21号や北海道胆振東部地震などで、改めて外国人観光客向けの災害対応に関する課題が浮き彫りになり、一層の体制整備が求められている。

本業務は、新潟市において増加する外国人観光客に対する災害対応力を強化するため、関連民間事業者などとの協力体制を構築することを目的に、災害時の外国人観光客対応セミナーを開催するとともに、今後の中期的な取組についてロードマップの検討を行ったものである。

災害時の外国人観光客対応セミナーでは、外国人を含む宿泊客の拠点となり、災害発生直後の観光客への一次対応が必要となる宿泊事業者に参加してもらい、災害発生直後に現場ではどのようなことが起こり、それに備えるには何をしていけば良いのかについて学んだ。



災害時の外国人観光客対応セミナー

【5】新潟市「防災教育」学校・地域連携事業（新潟市教育委員会からの委託業務）

本業務は、平成27年度より新潟県防災教育プログラムによる防災教育が新潟市内の全小中学校で必須となったことを受け、災害を乗り越える礎となる「共助」を強化し、今後の地域防災の中心となる児童・生徒に対して自らの命を守るための方法を考える力を培うため、家庭や地域と連携した実践的な防災教育が定着及び継続することを支援したものである。

実施体制は、NPO法人ふるさと未来創造堂、NPO法人にいいがた災害ボランティアネットワーク、当機構の3者からなる「新潟市防災教育コンソーシアム」を組織して、業務の受託及び遂行にあたった。

平成30年度は12中学校区、計32校を指定校とし、教員に対する事業説明会兼防災教育研修会を開催するとともに、各校に対して防災教育の自校化に向けたアドバイスや指導事例や教材・資料の準備など専門的なサポートを行った。

【6】わが家の防災力向上事業（新潟市東区からの委託業務）

本業務は、災害から自分や家族の命を守るために、地域の防災力の向上及び防災活動の持続性を高める「防災出前講座」を実施するとともに、小学生などの親子を対象に、災害時の電気がない生活等を体験するなどして、身を守ることの大切さや日頃からの防災に対する備えなどについて学んでもらう「親子チャレンジデー」を実施したものである。

防災出前講座は、新潟市東区内の自主防災組織等の構成員が対象であり、開催地域の要望に応じて「地震編」「水害編」「避難所運営編」の3つのメニューを用意し、当機構職員が講師をつとめ、合計13回開催した。親子チャレンジデーは、平成30年7月29日、9組18名の親子が参加し、防災グッズの作成、非常食体験、ライフラインが止まった時の対応などを学んだ。



防災出前講座



親子チャレンジデー

【7】地域の避難マップ作製ワークショップ業務（新潟市西区からの委託業務）

本業務は、新潟市西区において、想定される地震・津波災害からの人的被害の発生を防ぐため、住民参加型ワークショップを通して、地震や津波が発生した際の避難経路等を示した避難マップを作成したものである。平成30年度は、真砂地区及び五十嵐地区を対象地域として、避難マップ製作ワークショップを開催した。



避難マップ作成ワークショップ

【8】避難所運営講習会業務（新潟市西区からの委託業務）

本業務は、新潟市西区内の連合自主防災会等における地域住民を対象として、避難所運営に関する講習会を実施したものである。平成30年度は、内野地区自主防災会、西内野地区自主防災会、山田連合自主防災会、小針コミュニティ協議会の4地域で講習会を開催し、避難所運営には施設管理者、地域住民及び行政職員の3者の協力体制が必要なこと、地域住民主体の運営が重要なことを伝えた。



避難所運営講習会

【9】南区総合防災訓練及び白根高校防災学習支援業務（新潟市南区からの委託業務）

本業務は、災害に強いまちづくりを目指し、災害時に自助・共助による安心安全なまちづくりを進めるため、地域防災の担い手として白根高校の高校生を防災ボランティアとして育成するとともに、総合防災訓練を通して地域全体の防災意識の向上を図ることを目的に実施した。

南区総合防災訓練（平成30年11月4日）において、計4地区の自主防災訓練に当機構職員を派遣し、地域防災に関する講演及び防災グッズ作成等の指導を行った。また、白根高校において高校生の各学年を対象に、防災学習（防災ボランティア講座）を実施するとともに、防災訓練当日における避難所開設、避難所設営、避難者受入補助、段ボールベット作成などの指導を行った。



新潟市南区総合防災訓練



白根高校における防災学習

【10】防災士スキルアップ研修（村上市、妙高市、田上町からの委託業務）

村上市、妙高市、田上町において、以下のとおり防災士スキルアップ研修を開催した。

○村上市（平成30年7月29日、平成31年1月26日／計2回）

○妙高市（平成30年7月26日～27日／計3回）

○田上町（平成30年7月1日、平成30年12月1日／計2回）



村上市の防災士スキルアップ研修

【11】親子向け「避難所生活体験会」（新潟市開発公社からの委託業務）

本業務は、指定避難所であり、東日本大震災では福島県からの避難者を受け入れて避難所運営を行った亀田総合体育館を会場として、親子や地域住民を対象に、避難所生活体験を通して災害時の備えを学び、防災・減災の意識向上を図るために実施したものである。

避難所生活体験会は平成30年8月4日、8月5日に開催。約50名の親子の参加を得て、非常用持出袋の確認、避難所に関する座学、避難所施設の点検、給水車による飲料供給、災害食、就寝環境づくり、グループワーク、体操などの体験プログラムを行った。



亀田総合体育館での避難所生活体験会

【12】IoT を活用した地域防災システムの社会実装検討業務

(国立研究開発法人防災科学技術研究所からの委託業務)

本業務は、国立研究開発法人防災科学技術研究所（以下、防災科研という）が遂行している「「攻め」の防災に向けた気象災害の能動的軽減を実現するイノベーションハブ」の構築に向けて、モデル地域において IoT を活用した地域防災システムを開発・検証するための実証実験等を行い、社会実装に向けた課題及び可能性を見極めるとともに、モデル地域で展開してきた気象ハブを自立的かつ継続的に機能させるための手法について検討したものである。

具体的には、コアメンバー及び関係機関からなる実施体制を構築し（気象災害軽減イノベーションセンター長岡サテライト）、定例会議等の開催、関係機関との調整などのコーディネート業務を行った。また、「①消雪パイプの稼働のために設置されている降雪センサーに通信機能を付加し、センサーの情報をクラウド上に一括集約・表示するシステム構築の実証実験」、「②民間気象会社と連携して路面温度予測を行い、道路管理者に提供するシステム構築の実証実験」、「③市街地を流れる河川の水位を観測・周知し、住民と学び合うシステムを構築の実証実験」をサポートし、ビジネスモデルの提案、将来展望に関する POC（概念実証：Proof of Concept）を行った。



平成 30 年度気象災害軽減イノベーションセンター長岡サテライト活動報告会

【13】防災士養成講座（自主事業）

これからの防災対策の基本理念は、公共のみに頼るのではなく、市民の一人一人が自分事として、自分の命は自分で守る、地域は地域で守る、職域は職域で守るという考えのもとに進められるべきとされている。すなわち、自助・共助、協働を原則として、社会の様々な場で防災力を高める活動が期待され、そのための十分な意識と一定の知識・技能を修得した者として、防災士制度が創設された。いま地域や企業の防災リーダーとして防災士資格の取得が奨励されており、防災士の認証者は全国で17万人を超えた。新潟県では4,132人（2019年4月末時点）である。

当機構では、これまで防災士の受験資格が付与される中越市民防災安全大学や県内自治体が独自で実施する防災士養成講座の開催支援などを行ってきたが、平成30年度は新潟県の協力を得ながら初めて自主事業として防災士養成講座を開催した。県内各地から47人の参加申込（1名は体調不良で欠席）があり、42名が防災士試験に合格・認証された。

■平成30年度防災士養成講座 開催概要

- ◆開講日時 2018年12月8日（土） 9:00～18:00
2018年12月9日（日） 9:00～18:00（資格試験：17:00～18:00）
- ◆会 場 新潟県庁 2F 講堂（新潟市中央区新光町4-1）
- ◆参加者 46名（申込47名。1名欠席）＋ 試験のみ3名
- ◆受講料 60,000円（教本代、受験料、登録料含む）
- ◆講 師
 卜部 厚志（新潟大学災害・復興科学研究所准教授）
 松田 曜子（長岡技術科学大学工学部環境社会基盤工学専攻准教授）
 岸 和義（中越市民防災安全士会 会長）
 中川 慶太（新潟県防災局防災企画課）
 中林 一樹（中越防災安全推進機構 理事長）
 稲垣 文彦（中越防災安全推進機構 統括本部長）
 諸橋 和行（中越防災安全推進機構 地域防災力センター）
 河内 毅（中越防災安全推進機構 地域防災力センター）
 松井 千明（中越防災安全推進機構 地域防災力センター）

◆研修プログラム

	1日目 12月8日(土)	2日目 12月9日(日)
	(9:00～9:15) 受付・受講者の確認 履修レポートの提出	(9:00～9:10) 受付・受講者の確認
	(9:15～9:30) オリエンテーション	
1 限目	(9:30～11:30) 自然災害 <講師: 卜部 厚志>	(9:10～10:10) 近年の災害、復旧と復興 <講師: 中林 一樹>
2 限目		(10:20～11:20) 避難と避難行動 <講師: 諸橋 和行>
	昼休み	昼休み

3 限目	(12:30～13:30) 防災士の役割 <講師:稲垣 文彦>	(12:20～13:20) 災害ボランティア <講師:河内 毅>
4 限目	(13:40～14:40) 地域防災・自主防災 <講師:岸 和義>	(13:30～14:30) 身近でできる防災対策、耐震診断 <講師:松井 千明>
5 限目	(14:50～15:50) 災害と応急対策 <講師:松田 曜子>	(14:40～15:40) 防災訓練 <講師:河内 毅>
6 限目	(16:00～18:00) 避難所運営 <講師:諸橋 和行>	(15:50～16:50) 行政の災害対応 <講師:中川 慶太>
7 限目		(17:00～18:00) 防災士資格取得試験



◆申込者内訳

市町村	人数	備考
新潟市	27	中央区 4、東区 3、西区 3、北区 8、南区 6、江南区 1、秋葉区 1、西蒲区 1
新発田市	1	
阿賀野市	1	
魚沼市	5	市から一括申込
妙高市	3	市から一括申込
田上町	5	町から一括申込
粟島浦村	4	村から一括申込